

令和4年度（補正予算）

関係人口創出・拡大のための対流促進事業 （中間支援組織の提案型モデル事業）

事業の実施結果 （概要）

団体名	特定非営利活動法人ezorock
事業名	“じぶん鹿レザー”からはじまる自然と共に暮らす地域とのつながりづくり事業

- 北海道内で使いきれずに廃棄されている**エゾシカ皮の活用**を切り口に、実際に地域を訪問し実情を知りながら、自身でひと手間を加えたエゾシカレザーを手に入れる「じぶんレザープログラム」を実施。
- すでに地域や関係人口に関心を持ってる層ではなく、レザークラフト体験やエゾシカ肉をテーマにしたオンラインイベントを入り口にする事で、**レザーやクラフト関心者が地域に関わるきっかけ**を創出。

主な活動内容

1. クラフト体験や学習会などの展開等で関心者を集める

- 都市部でエゾシカレザークラフト体験プログラムやエゾシカ肉をテーマにしたオンラインイベント、勉強会、クラフトイベントへの出展を実施することで、レザーやクラフト加工等に関心を持つ人を集めた。（体験参加・イベントブース訪問者：350人以上）

2. 関係人口プログラムの開発・展開

- 2023年6月～2024年2月に宿泊型プログラム(鷹栖町・湧別町)および日帰りプログラム(石狩市浜益区)を実施した。
回数：5回/ 参加者：のべ41名
- 当日は地域への理解を深めるプログラムを展開し、プログラム中に参加者自身が作業の一部に加わったエゾシカレザーを届けることで、継続的な地域への関わりを促した。

3. エゾシカ皮を切り口にした関係人口コミュニティの運営

- プログラム参加者によるオンラインコミュニティでは、継続的な情報提供と意見交換が行われた。（登録者：71名）



イベントで出展し事業周知を図る様子



レザークラフト体験の様子



地域のお手伝いとして薪割りをする参加者



地域住民を談笑するプログラム参加者

主な成果

1. 参加者や地域の声 “生き生きしている人に出会った”

- 参加者（都市部住民等）からは、「地域づくりや地方」と聞くと苦勞しているようなイメージがあったが、実際に出会った方々の生き生きと活動する様子が印象的という感想が多く聞かれた。
- 地域住民からは、事業開始当初はシカに関心を持って地域を訪問する人がいるのかと懐疑的な声もあったが、実際に参加者の強い関心に触れ、今後も実施したいという声があがっている。

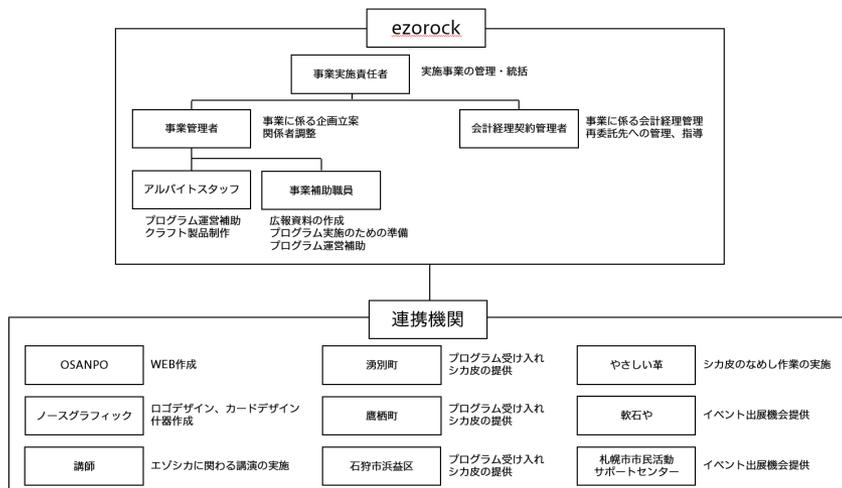
2. 未利用な資源が関係人口を生み出すきっかけになる

- 地域住民は、地域に関わりを持つきっかけづくりが難しいと考える場合が多いが、身の回りにある未利用な資源が都市部住民にとっては関心を持つ入り口になることを知るきっかけづくりを行うことができた。

3. 事業を通じて得られた気づきや知見

- クラフト関係者には原材料の背景を知りたい等のニーズが一定数あり、関係人口創出の入り口をなり得ることに気が付いた。

事業実施体制・関係機関



団体名	役割
ezorock	実施主体(進行管理、予算管理)
湧別町、鷹栖町、石狩市 浜益区	プログラム受け入れ、シカ皮の提供
やさしい革	シカ皮のなめし作業の実施(外注)
OSANPO	WEB作成(外注)
ノースグラフィック	デザイン、什器作成(外注)
講師	エゾシカに関わる講演の実施
軟石や	イベント出展機会提供
札幌市市民活動サポート センター	イベント出展機会提供

食や環境に関する取組状況

シカを取り巻く現場に足を運ぶ体験プログラムの実施

レザークラフトや野生生物、環境教育などに興味を持つ潜在的な関係人口予備軍へ本プログラム参加のアプローチを行った。エゾシカの課題に直面している地域で実際に活動を行うことでエゾシカやその地域に対する理解を深めることができた。プログラム内では、エゾシカの解体や精肉、ペットフードへの加工作業の見学・体験を行い、机上では想像のつかないリアルな環境課題への取り組みに触れることができた。

エゾシカ肉から地域の食に触れる

プログラム中にはエゾシカ肉を食べる機会も多くつくることができた。本プログラムで初めてシカ肉を食べた参加者も多かったが、プログラム終了時にはエゾシカ肉を購入する参加者も多く、北海道産食材のひとつであるエゾシカ肉の普及の観点からも成果を感じている。

地域での体験プログラム後に、作業で関わったエゾシカレザーを受け取り、小物を製作

体験プログラム後、対面式で自分が作業に関わったエゾシカレザー(じぶんレザー)の受取およびクラフト体験会を行なった。じぶんレザーを用いたクラフト体験を行うことで、愛着の持てる小物を制作した。



エゾシカ解体作業を見学する参加者
プログラム中で最も印象的だったという感想が
多く聞かれた

次年度以降の事業展開

・ レザー・クラフト関心者へのアプローチの強化

本事業では、すでに地域づくりに関心を持つ層ではなく、レザーやクラフト等に関心を持つ層に対してアプローチすることで関係人口創出を目指すことができるのではないかと仮説を立て実施した。実際にクラフトイベント等へ出展し、ブース訪問者やイベント主催者へヒアリングを行ったところ、クラフト作家や関心者には原材料の背景や想いを知りたいというニーズがあることがわかった。実際にクラフト体験から地域を訪問するプログラムへの参加へと繋がった参加者もいるなど想像以上にレザー・クラフトと関係人口創出の相性が良いことに気が付くことができた。

今後はさらにレザー・クラフト関係者との繋がりを深め、本プログラムへの関心者（関係人口予備軍）を増加させる取り組みを展開することで、実際に地域との繋がりを増加させていきたい。

・ 廃棄されるエゾシカ皮から受入地域との関係構築

北海道内で毎年駆除されるエゾシカは10万頭におよび、その皮のほとんどが廃棄されている。駆除に携わるハンター（専業・兼業問わず）は廃棄料を支払って皮を廃棄している。本プログラムでは、関係人口を創出すると共に、廃棄している皮の活用を行う。本事業内で連携した3地域との継続的な連携はもちろんのこと、エゾシカ活用の観点から他地域との関わりを持ち、プログラム受入先を増加させていきたい。

	2024年 前期	2024年 後期	2025年 前期	2025年 後期	2026年 前期	2026年 後期
レザー・クラフト関係者との繋がりづくり	強化	継続				
エゾシカレザーの販売（予算確保）	試行		継続			
クラフト体験会など関心を高める取組	継続					
じぶんレザープログラムの実施	2地域		3地域		5地域	
オンラインコミュニティの運営	継続					

	区分	金額（千円）	内訳
支出の部	人件費	580	事務局運営費
	諸謝金	120	プログラム受入謝金 (30千円×4回=120千円)
	旅費	250	プログラム交通費(20千円×6回=120千円)
	委託費	300	皮なめし委託費(10千円×30枚=300千円)
	通信運搬費	50	広告費
	その他	50	イベント出展料など
	合計	1,350	

	区分	金額	内訳
収入の部	事業収入	1,350	エゾシカレザー販売 (25千円×50枚=1,250千円) エゾシカレザー小物販売 (5千円×20個=100千円)
	合計	1,350	

自立・自走化にあたっての課題

・ エゾシカレザーの消費拡大

本プログラムは、受入地域から提供されたエゾシカレザーをクラフト作家等へ販売することで、予算捻出を行い継続的に実施していく計画である。そのためには、クラフト原材料の背景に関心を持つクラフト作家へレザーを提供する必要がある。しかし、現在当法人はレザー・クラフト関係者への繋がりが強固ではなく、地域側から提供されるエゾシカ皮を活用、販売数を増やしていくことが難しい。レザー・クラフト関係者のもとに足を運び、繋がりを築いていくことで本事業の継続性を高めていきたい。